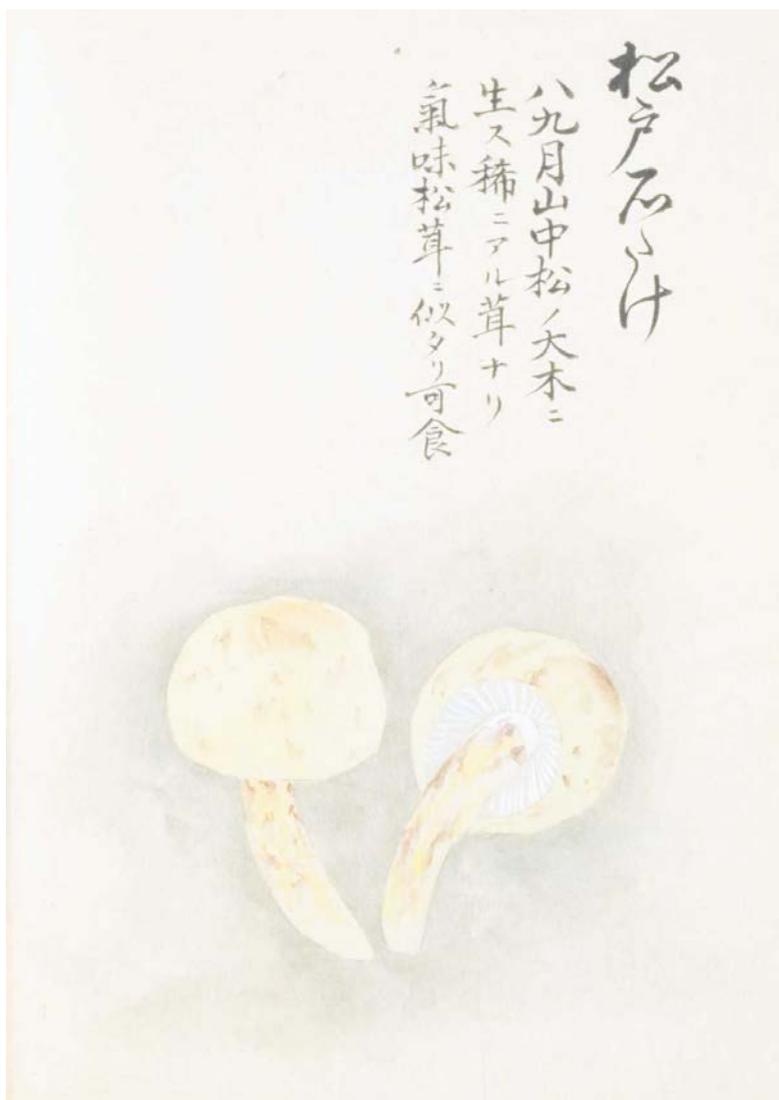


楷

第六十七号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.67
2018
OCTOBER



<写真>

松戸石たけ
八九月山中松ノ大木ニ
生ス稀ニアル茸ナリ
氣味松茸ニ似タリ可食

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

—目 次—

- 図書館の役割とページをめくること（植物研分館長 平山隆志）…………… p.2
- 災害と人間の暮らしー歴史と文化の固有の役割ー（附属図書館長 今津勝紀）…p.5
- マスカット……………p.8
池田家文庫絵図展のお知らせ、岡山大学公開講座「岡山後楽園と絵図」実施
報告、オープンキャンパス報告 ほか
- 会議・研修・編集委員から…………… p.16

図書館の役割とページをめくること

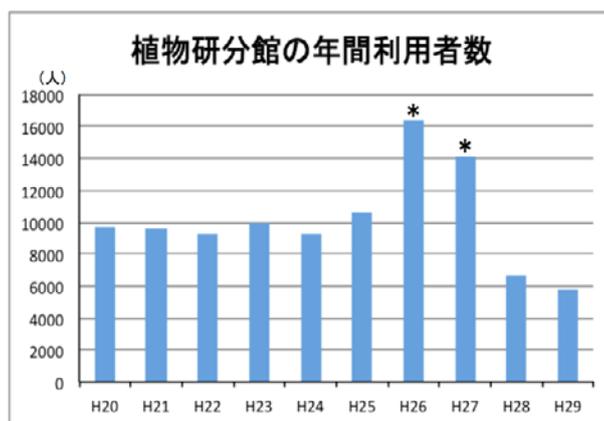
平山 隆志

はじめに

資源植物科学研究所（倉敷キャンパス）には、附属図書館の分館があります。この分館は、この研究所の前身であった財団法人大原奨農会農業研究所の図書館がその起点となっており、ここには研究所の創立者であった大原孫三郎氏の命により集められた膨大な学術書籍が、現在も貴重図書として保管されています。この貴重図書に関しては、これまでの歴代の分館館長（馬教授、佐藤教授、村田教授）により「楳」に寄稿された文に詳細が紹介されておりますので、そちらを参照していただきたいと思います。それ以外にも Nature, Science といった由緒ある学術雑誌を創刊号から所蔵するなど、学術図書館としての役割を担ってきました。現在も、学術雑誌、様々な研究および教育に関わる図書を中心に所蔵しており、研究所の所員および学生の研究教育に役立っています。

資源植物科学研究所分館の利用状況

とはいうものの、残念ながらその利用者数は、最近減少傾向にあります。そう申す私も、図書館や書店に行くのが好きですが、なにか特別は用事がなければ研究所分館に足を運ぶことはありません。



* : H26およびH27は、研究棟改修のため研究所分館の一部を講義室として利用した事により、利用者が見かけ上増加したと考えられる。

先日、大宅壮一文庫が閉館の危機にあるというニュースを目にしました。ご存知の方も多いと思いますが、大宅壮一文庫は私営ながら日本最大の雑誌コレクションを持ち、これまでジャーナリストや研究者を中心に利用されてきました。しかし、最近利用者が減少し赤字経営が続いているようです。近年ウェブ雑誌が増加し雑誌そのものの販売が減少していることも、その要因になっているようです。これについてあるジャーナリストが、ウェブ上で見られる情報がある以上、わざわざ大宅壮一文庫に赴く必要は無くなるだろう、とコメントしていました。

研究所分館を取り巻く状況も、同じ構図のように見えます。現在のように学術雑誌の情報がウェブ上で見られなかった頃は、学術雑誌の閲覧が研究所や大学の図書館の重要な役割だったと思われます。現在活躍されている大学教員の多くが若い頃は、時間さえあれば図書館（図書室）に出向き、新しい研究情報を求め学術雑誌のページをめくっていたのではないのでしょうか。しかし、詳細かつ選択された学術情報が居室のパソコンで検索、閲覧できるようになった今、新しい学術情報を求めて図書館に赴く必要は少なくなりました。つまり、「情報基地」としての図書館の役割は、終わりを迎えつつあると言わざるを得ません。とすると、研究所分館を含め図書館の主な役割は、貴重図書の保管と購読雑誌の整理に集約して行くことになってしましますが、果たしてそれで良いのか疑問です。

図書館のイメージ：「変わる」と「変える」

もし、図書館の理想的なイメージは？と問われたら、ムセイオンとその図書館が思いあたります。ムセイオンはプトレマイオス朝のエジプトに建設された当時最大の研究所ですが、そこには大図書館が併設されていました。その図書館こそが重要で、そこが所蔵する世界各地から集められた文献を読むために多くの著名な学者が集まったと、高校の歴史の教師が強調していることを覚えています。

ムセイオンやその図書館が実際にはどのようなものであったのか私は知らないのですが、ラファエロが描いた「アテナイの学堂」のようなところだったのではないかと勝手に想像しています。情報のほとんどが伝聞に限られていた時代、図書館は貴重な書物から情報を取得できる稀な場所であっただけでなく、過去と現代の知見を皆で議論しながら分かち合い、世界を理解するとともに未来を構築するための要素を生み出していき、そして人と人をつなげその輪を広



ラファエロ「アテナイの学堂」。中心の人物がプラトンとアリストテレスだと言われている。

(https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Raffael_058.jpgより転載)

げる、そんな場所だったのではないかと空想します。この想像が実際と大きくは外れてなければ、現在の多くの大学図書館は「ラーニング・コモンズ」の場として、そのような役割を獲得し（取り戻し？）始めたと言えるかもしれません。

いずれにしても、多くの方が指摘されているように、今、大学や研究機関の図書館はその存在意義が問われ始めています。今後も、大学の教育研究体制に合わせ「変わる」ことが求められるのだと思います。が、積極的に未来に向け目的をもって図書館が自らを「変える」こと、そしてそれを発信し利用者の図書館のイメージを「変える」ことも重要と思います。それには、多くの議論や試行錯誤が必要で、良い答えが見つかるまで様々なチャレンジを続けることが大切だと思います。

ページをめくってみれば

そもそも、図書館の存在意義は、「求められる情報」の提供だけなのでしょうか。上述のように、かつて私達は、暇をみつけては図書館で学術雑誌のページをめくっていました。それは時間がかかる作業でしたが、思いがけない情報に出会う楽しいひとときでもありました。今、学術雑誌のページをめくる「必要」はなくなりましたが、ページをめくる「楽しみ」も失われてしまったのでしょうか。—という疑問をいだきながら、久々に研究所分館を訪れてみました。書棚にあった一般科学雑誌の見出しに興味をひかれ手にとってみれば、ぱらぱらとページをめくる間にも、専門分野外のおもしろそうな論説、ちょっとした科学的余話、数理的なクイズなど目新しい様々な情報にふれ、なんとなく固まっていた頭が少しほぐれたような開放感を味わいました。こんな一時でも新たな視点、問題点、知識が得られ、ページをめくることの魅力にあらためて気付かされました。同時に、利用者の減少は、私達が目的とする情報を得ることばかりにかまけ、知的好奇心を解き放つ余裕をなくしただけなのかもと想到しました。皆様もたまには図書館に出向き、ページをめくってみてはいかがでしょうか。かつてムセイオンの図書館でいにしえの学者がパピルスの断片に記されたことから世界の広さを知ったように、まだまだ知らない世界が広がっていることを実感できるかも知れません。

(ひらやま・たかし 資源植物科学研究所分館長)

災害と人間の暮らし

—歴史と文化の固有の役割—

今津勝紀

一、災害からの復興と歴史・文化

史料ネットという活動があることをご存知だろうか。地震や水害などの災害で地域の歴史資料が失われることを少しでも防ごうという活動である。それがはじまったのは、一九九五年の阪神淡路大震災にまで遡る。

今でこそ、災害発生時にボランティアが活躍するのはよく見る光景になったが、一九九五年はボランティア元年とも呼ばれる。それまでの日本では市民のボランティア活動はあまり大きく取りあげられることもなかったが、阪神淡路大震災の惨状を見るに見かねた多くの市民が、自分の出来ることを手伝おうと動き出したのがこの年であった。筆者はその頃、神戸に居住しており、はじめて職を得た鳥取と神戸の間を行き来する生活をしていたのだが、見慣れた光景が一変し、そこに織り込まれていた人と人との関係が失われたことに、大きな衝撃を受けた。まさに、大切な人を突然亡くしたのと同様で、一瞬にして町を失ったことで、心にぽっかりと穴が空いたような状態になったのを覚えている。

このような大災害に際しては、莫大な公費が注ぎ込まれ、ライフラインの復旧を最優先として、ハード面の再建がものすごいスピードで進められる。これは当然のことなのだが、損壊、倒壊した家屋の撤去にともない、その家が伝えていたものなどが、どんどん捨てられてゆくことにもなる。また地下に遺構があることがわかっても生活再建が優先されるので、調査なしで工事するのやむを得まいとする空気も広がっていた。そもそも調査員となるべき行政職員が災害対応で忙殺されている。このままでは、地域の歴史を伝えるものが何もなくなってしまっているのではないか、この喪失感を補填し前を向いて歩みをすすめるには町の記憶と記録が不可欠ではないのか、そんな危機感を若手の歴史研究者たちが共有していった。そこで、被災した家屋を一軒一軒訪ね、生活の再建がなるまで一時的にお預かりします、必要ならば修復などもしますと、ビラを配り、呼びかけて回る活動をはじめた。これが史料ネットの原点である。

しかし、今から二五年前の活動は困難をきわめた。そもそもこうした広い意味での文化財についての社会的認知が低かった。被災した家々を回ってみると、そのようなものはないと、あしらわれるのが普通である。もちろん、その都度、お宝のような古文書ではなく、みなさんが大切にされている日々の生活の痕跡が大事ですので、そうしたものも残せるといいですね、などと説明はするのだが、理解を得るのは困難であった。また、今でこそ、こうした地域に残された人間の痕跡を地域歴史遺産などと呼称しているが、当時は文化財保護を主管する文化庁をはじめ都道府県、市町村の教育委員会でもそうした資料を保全することの必要性を認識していなかった。行政は文化財保護法で指定した文化財の保護、保全の義務を負うが、そこからはずれる未指定文化財の保護、保全は業務外であり、史料ネットがやろうとしていることには関知

しない、むしろ無駄な仕事を持ち込むな、というのが基本スタンスであった。

とはいえ、本当の意味での復興ってどういうことだろう、私たちが、人間らしく暮らせる地域社会や町とはどのようなものだろう、と考えた際、これまでの歴史と文化を見つめ直し、未来を見据えることがやはり重要である。第二次世界大戦で日本が焦土と化し、敗戦後、新たな日本の再建が目指されるが、その際にも日本の歴史を見つめ直す運動が盛り上がりを見せた。これは国民的歴史学運動とも呼ばれたが、新たな日本をめぐる党派的な駆け引きに巻き込まれ、僅か数年で頓挫した。こうした政治運動はすぐに廃れたが、例えば、第二次世界大戦で焼け野原になった岡山城下で、岡山城天守閣の「再建」が目指されたのも同様の意味をもっていた。高度経済成長期に岡山城の天守閣は「再建」されるが、岡山という場を共有する人たちの「大切なもの」、シンボル、拠り所として天守閣が必要だったのだ。また、ほぼ同時期に『岡山市史』の編纂も実施されるが、これも過去を振り返ることで、自らの位置を確かめ、これから進む方向を再認識することであり、これらはいずれも市民の未来に向けての事業なのであった。

二、岡山史料ネットの運動

岡山県内で史料ネットの活動を最初に行ったのは、二〇〇〇年十月六日の鳥取県西部地震の時、新見市千屋地区で被害があった。その際、新見市役所に出向き、歴史資料の把握状況を伺い、ビラの配布などの協力を求めたが、理解を得るには至らなかった。また、現地のボランティアセンターなどでも交渉を重ねたが、これも理解を得られた形跡はない。その場で、解体家屋の片付け作業の過程で出てきた資料がいくつも見受けられたので、こうしたものも地域の歴史資料ですので残す手立てを考えましようと思えるのだが、通じなかった。

大規模災害以外にもさまざまな契機に地域の歴史資料は滅失しているが、日常的にも何かやることはあるのではないか、これまで各地の史料ネットは、災害が起きてから動いてきたが、その前に何かできることはあるのではないか、千屋での失敗は、地元との連携の欠如が大きな要因であったので、県内で多様なチャンネルなりネットワークを作っておくことが大切だと考えさせられた。そこで、大規模な災害に見舞われる前に、予防的に関係者のネットワークを作り、準備しておこうというのが岡山史料ネットの出発点である。こうして岡山史料ネットは、日本最初の予防型ネットとして成立する。

県内の関係者とともに講演会やワークショップを開くようになったのが二〇〇五年からだ。が、なかなか実質的には機能しなかった。例えば、二〇〇九年八月に列島を襲った台風九号は、兵庫県佐用郡佐用町などで死者・行方不明者二名にのぼる被害をもたらし、隣接する岡山県美作市でも水害が発生する。特に美作市の江見・土居で被害が激しかったが、土居は、播磨から国境の峠を超えて美作に入った最初の出雲街道の宿場町であり、ここが濁流にのまれた。この時も地元の研究者とともに、市役所を訪れ歴史資料のレスキューへの協力をお願いするのだが、反応は芳しくなかった。

今回、二〇一八年七月六日の豪雨は西日本各地に大きな被害をもたらし、岡山県内でも倉敷市・岡山市・総社市・高梁市ほか、各地で被害が発生し、岡山史料ネットもさまざまなレスキュー活動を行い、ようやく予防型から実践型へと移行するのだが、当初の想定通りに運ばなかったことも多くあった。しかし、事前にネット事業がスタートしていたことで、本学だけでなくノートルダム清心女子大学など近隣大学の協力もえられ、県・市の諸組織・機関とのスムーズな連携が実現したことなどは大きな成果である。これを執筆している一〇月現在では、緊急搬送したものを安定化させる作業へと移行しつつあるが、息の長い活動になるだろう。

一九九五年以降、日本各地で災害が頻発する中で、史料ネット運動は全国へと広がってゆき、今や全国の二四県で、概ね、それぞれの国立大学を中心として事務局が置かれ活動を行っている。現在、人間文化研究機構を中心にこれらの大学のネットワーク化が進められようとしているが、こうして全国に拡大していることには、何かより積極的な意味があるように思う。



倉敷市立真備図書館の被災の様子

断捨離という言葉があるが、これは何もかも捨ててしまおうというものではないだろう。つきつめると本当にいるもの、必要とするものの選択であり、「大切なもの」を見つめ直す行為にはかならない。人は生きてゆく上で、拠り所とする「大切なもの」が誰にでもあるのだ。これは家や町、社会や民族、さらには人類にとっても同様であり、それぞれに大切なものがあるのだが、日本国や岡山県・岡山市といった大きな物語で代替するのではなく、人々の生活に寄り添って、歴史と文化を大切にしていこうというのが、史料ネット運動の本質的に重要な部分ではなからうか。決して、歴史家による歴史家のための資料保存運動なのではない。史料ネット運動は、史料の救済・保全をきっかけとして、地域の歴史や文化を見つめ直す、生活者を主体とした新たな地域社会や町作りの運動であり、歴史家はほんの少しそのお手伝いするだけである。

こうした文脈でこの問題を考えた際に、図書館が果たしうる役割は実に大きいものがある。図書館は設置主体の性格に応じて、それぞれ固有の役割があり、一様ではないが、知識や情報の集積といった基本機能は共通する。今回の災害で倉敷市真備図書館は壊滅的被害を受けたが、地域住民が必要とする知識・情報の集積体の「再建」が待たれるところである。それこそが、まさに復興のシンボルになるだろう。岡山大学附属図書館としても可能な限りの支援を行いたい。

(いまづ・かつのり 附属図書館長)

マスカット

池田家文庫絵図展のお知らせ

池田家文庫は、江戸時代の備前岡山藩の藩政資料を中心とした約 10 万点にものぼるコレクションで、現在は岡山大学附属図書館が保管しています。平成 17 年 3 月には岡山市と岡山大学の間で文化事業協力協定を結び、以後池田家文庫の特徴の一つでもある「絵図」を中心とした展覧会を毎年開催しています。

今回の展覧会では「岡山藩と寺社」をテーマに展示します。江戸時代の人々にとって寺院や神社は日々の生活に欠かせない宗教施設でした。池田家と関係の深かった寺院や神社を豊富な絵図・文書で御覧いただきます。

1. 名称：企画展 池田家文庫絵図展「岡山藩と寺社」
2. 会期：平成 30 年 11 月 3 日（土・祝）～11 月 18 日（日）（休館日を除く 14 日間）
[休館日] 11 月 5 日（月）、11 月 12 日（月）
[開館時間] 10:00～18:00（入場は 17:30 まで）
3. 会場：岡山シティミュージアム 4 階 企画展示室
〒700-0024 岡山市北区駅元町 15-1
4. 入場料：無料
5. 主催：岡山大学附属図書館、岡山シティミュージアム
6. 関連行事：

[オープニングトーク]

日時 平成 30 年 11 月 3 日（土・祝）10:00～10:30
会場 岡山シティミュージアム 4 階 企画展示室
講師 岡山大学 特命教授 倉地克直氏
内容 この展覧会を監修された倉地克直先生に展覧会場でお話しいたします。
備考 予約不要

[講演会]

日時 平成 30 年 11 月 10 日（土）14:00～16:00
会場 岡山シティミュージアム 4 階 講義室
講師 元岡山県立記録資料館館長 在間宣久氏
演題 池田家と国清寺
備考 定員 80 名（予約不要、当日先着順）

7. 主な展示資料：

美濃国池田郷本郷村御墓所見取略図
撮要録
円山全図
円山正覚谷塔図
八塔寺本堂指図



岡山大学公開講座「岡山後樂園と絵図」実施報告

日時：平成30年9月18日（火）14：00～16：00

場所：中央図書館本館3階セミナー室

講師：岡山県郷土文化財団 主任研究員 万城 あき氏

参加者：63名

今年の公開講座では、岡山の観光名所の第一に挙がる岡山後樂園について、岡山県郷土文化財団の万城あき先生に講演していただきました。特に後樂園作庭の歴史的背景や作庭過程、現在に至る後樂園の変遷について大変詳しくご説明いただき、我々には身近にある岡山後樂園について、理解を深めることが出来ました。また、同時に岡山後樂園の絵図など、当館所蔵の池田家文庫から展示も実施し、こちらも好評でした。

当日は63名の方にご参加いただき、「岡山後樂園の歴史が良く理解できた」「あらためて後樂園を見てみたいと思った」などの声をいただき、盛会のうちに終了しました。



オープンキャンパス報告

中央図書館および鹿田分館は、平成30年8月9日（木）、10日（金）の2日間、オープンキャンパスでにぎわいました。

会場では、大学教科書展示、図書館で取り組んでいるアカデミックライティングセミナーの紹介、解剖学アプリの紹介などを行いました。

2日間にご来館いただいた高校生、保護者の方は、中央図書館で4,721名、鹿田分館で496名に達しました。

学生・館長懇談会報告

中央図書館では、平成30年7月11日（水）に、自然科学研究科、環境生命科学研究科、工学部所属の学生計7名の参加を得て、今年度1回目の学生館長懇談会を開催しました。

懇談会は年2回開催しており、よりよいサービスの提供を目指して、学生から図書館利用についての意見や要望を直接お聞きするために実施するものです。

この度の懇談会で、学生からは開館時間や空調、館内マナー、資料検索等について改善の要望が出ました。懇談会終了後、学生からの意見を基に、サービス改善に取り組んでおります。附属図書館では、今後も懇談会で得られる貴重な意見をもとに、よりよいサービス実施に努めます。

中央図書館ミニ展示報告

中央図書館本館 1F ロビー、本館 1F ラーニングコモンズ内の展示スペースで、当館資料を紹介する「ミニ展示」を実施しています。ぜひご覧ください。平成 30 年 3 月～9 月は下記テーマで実施しました。

- 3 月 「International Book Day で紹介した本」
(知好楽セミナー関連展示)
- 4 月 「学生のみなさんへ 新学期応援おすすめ本」
- 5 月 「岡山を読む」
- 6 月 「環境特集」
- 7 月 「天文・宇宙特集」
「生協寄贈図書コーナー展示」
- 8～9 月 「オープンキャンパス企画 岡大生準備号」



知好楽セミナー報告

「知好楽セミナー」とは、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした中央図書館の独自企画です。各界から多彩な講師をお招きし、ご好評をいただいています。

第 20 回 『屍人荘の殺人』今村昌弘講演会」

日時：平成 30 年 7 月 25 日（水） 15：00～17：10

場所：中央図書館 西館 5F 大会議室

講師：推理作家 今村昌弘氏

参加者：73 名

本学の卒業生でもある推理作家の今村昌弘氏をお招きし、ご講演いただきました。『屍人荘の殺人』はデビュー作でありながら、ミステリランキング 3 冠、本格ミステリ大賞受賞と快挙を重ねられています。講演後のサイン会も盛況で、お 1 人お 1 人と丁寧にお話をされながら、サインをしていただきました。

平成 30 年度「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」(夏) 実施報告

平成 30 年 6 月 17 日（日）、附属図書館と教育学部の共催による「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を岡山後楽園で開催し、26 名（小中学生 13 名、同行者 13 名）の方にご参加いただきました。

参加者は岡大学生による紙芝居で後楽園の歴史を勉強したあと、附属図書館所蔵の後楽園の昔の絵図（複製）を見ながら、自分たちで園内を回る道順を決めました。絵図を手に園内を回り、絵図に描かれた各時代の後楽園と現在の後楽園を見比べることで、普段とは違う視点から後楽園の魅力を発見しました。

サルトフロresta展示報告

中央図書館本館2階のサルトフロrestaでは各種の展示を行っています。サルトフロresta内イチョウエリアでは学内の研究成果を発表する「知恵の見本市」のポスター展示を実施しています。また、同じくクスノキエリアの展示スペースでは、学内の資源を使った様々な展示を行っています。具体的な実施内容は以下の通りです。

・岡山大学ゆかりの人物 「資源植物科学研究所と近藤萬太郎」

近藤萬太郎は岡山大学資源植物科学研究所の前身である大原奨農会農業研究所の初代所長であり、多くの輝かしい実績を残した大学者です。

ご遺族からご寄贈いただいた近藤萬太郎の遺品を中心に、偉大な研究者の事跡を振り返りました。

展示期間：平成30年4月1日（日）～平成30年7月4日（水）

展示場所：本館2階 サルトフロresta内クスノキエリア

展示資料：近藤萬太郎の遺品から、博士号学位記・大原孫三郎書簡・写真等

※ いずれも複製展示。

・「岡山大学所蔵 池田家文庫」

池田家文庫とは、江戸時代に池田光政が岡山藩主として岡山城に入部（1632年）して以来、明治4年（1871）の廃藩置県に至るまで蓄積された岡山の行政文書（藩政史料）と池田家所有の図書のことです。池田家文庫は明治以降も元岡山藩主池田家が保管していましたが、戦後、岡山大学に委譲され、現在は附属図書館で大切に保管・利用されています。

今回はその中から代表的な絵図・図書を選びすぎり、複製を展示しました。

展示期間：平成30年7月6日（金）～平成30年9月18日（月）

展示場所：本館2階 サルトフロresta内クスノキエリア

展示資料：「備前国九郡古図」「御後園絵図」「信長記」等

※ いずれも複製展示。

・「岡山後樂園の変遷」

岡山後樂園は岡山藩2代目藩主である池田綱政が家臣の津田永忠に命じて造らせました。1700年頃完成しますが、その後も改良を加えられながら現在の姿になっていきます。

このたびの展示では、岡山大学所蔵池田家文庫に残る絵図から後樂園の変遷をたどります。

※9月18日に開催された公開講座「岡山後樂園と絵図」で行われた展示の再展示。

展示期間：平成30年9月19日（水）～平成30年12月予定

展示場所：本館2階 サルトフロresta内クスノキエリア

展示資料：「御後園絵図（明和8年）」「後樂園地下ケ図」「御後園絵図（元禄2年頃、始り絵図）」等

※ いずれも複製展示。



「資源植物科学研究所と近藤萬太郎」



「岡山大学所蔵 池田家文庫」

オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では平成30年4月～7月にオリエンテーション等を実施し、延べ749名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション、ツアー

実施日	対象	参加人数
4月10日、23日	新任教員	3
4月4日	放送大学学生	9
4月4日～5月30日	新入生	507

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
4月17日、26日	図書館・文献検索ガイダンス (教員の依頼により授業・ゼミ等で実施)	29
5月18日、23日、24日	レポート・論文テーマ設定支援講座	43
5月23日、25日、30日	先行研究探索支援講座	41
7月20日、23日、25日	レポート・論文テーマ設定支援講座 mini	16
7月20日、24日、25日	先行研究探索支援講座 mini	14

データベース講習会

実施日	データベース名	参加人数
6月12日	Web of Science	20
6月12日	EndNote Basic	21
6月20日、22日	Econlit	4
6月21日、22日	PsycINFO	9
6月13日(2回実施)、14日	SciFinder Web版	23
7月5日	JapanKnowledge	7
7月4日、11日	JDreamIII	3

○鹿田分館

鹿田分館では平成30年3月～8月にオリエンテーション等を開催し、延べ712名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加人数
3月9日	育成プログラム	20
4月2日～13日	新入生	428
4月3日	医学科2年次編入生	5
4月13日	医歯薬学総合研究科博士課程	65

講習会

実施日	講習会名	参加人数
4月16日	文献入手講座（大学院学生）	1
4月25日	文献入手講座（秘書向け）	8
4月27日	文献入手講座（秘書向け）	5
5月31日	医中誌	19
6月4日	CINAHL	26
6月20日、21日	EBM Reviews	14
6月22日	UpToDate	107
7月6日	医中誌、PubMed	6
7月12日	WoS+EndNoteBasic	8

○資源植物科学研究所分館

資源植物科学研究所分館では平成30年4月～6月にオリエンテーション等を実施し、延べ137名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加人数
4月4日	環境生命科学研究所新入生	9
5月15日	農学部新入生	124

データベース講習会

実施日	データベース名	参加人数
7月12日	Web of Science + EndNote	4

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

伊藤武彦 [教育学研究科]

健康教育の理論と実践：わが国と外国の事例をもとに——日本学校保健会, 2018.3(374.97/K)

梶井一暁 [教育学研究科]

無盡山莊嚴院地藏寺所蔵文獻目録 第1・2・3冊——[原卓志], 2016.3- (BF029/M)

神立春樹 [名誉教授]

近代日本制度外学校史論：各種学校の社会的連繫——教育文献刊行会, 2018.7 (372.106/K)

竹島あゆみ [社会文化科学研究科]

承認・自由・和解：ヘーゲルの社会哲学 岡山大学文学部研究叢書 38)

——岡山大学文学部, 2016.3

(132.1/D)

張 星源 [社会文化科学研究科]

特許の計量分析 (岡山大学経済学研究叢書 第48冊

——岡山大学経済学部, 2018.3

(507.23/Z)

寺岡孝憲 [社会文化科学研究科]

Stil und Stildiskurs des Jungen Deutschland (Heine-Studien)

——Hoffmann und Campe : Heinrich Heine Verlag, c1993

(940.2/H)

Spuren der Götterdemokratie : Georg Büchners Revolutionsdrama Danton's Tod

im Umfeld von Heines Sensualismus pbk——Aisthesis, 2006,

(942.7/B)

出村和彦 [ヘルスシステム統合科学研究科]

アウグスティヌスの「心」の哲学：序説 (岡山大学文学部研究叢書 33)

——岡山大学文学部, 2011.12

(132.1/D)

中藤康俊 [名誉教授]

過疎地域再生の戦略：地方創生から地方再生へ——大学教育出版, 2016.11 (318.6/N)

過疎地域再生の戦略：地方創生から地域再生へ 改訂版

——大学教育出版, 2018.3

(318.6/N)

中国岐路に立つ経済大国：四半世紀の中国を見て

——大学教育出版, 2012.10

(332.22/N)

現代日本の資源問題——古今書院, 2012.9

(334.7/G)

人文地理学入門——气象出版社, 1999.8

(290.1/N)

北東アジア経済圏の課題——原書房, 2007.3

(332.2/N)

冷戦後の北東アジアと日本：20年の歩み——大学教育出版, 2008.10

(601.14/N)

水環境と地域づくり：持続可能な発展をめざして——古今書院, 2010.1

(519/N)

南健太郎 [埋蔵文化財調査研究センター]

銅鐸の使用痕分析による弥生時代祭祀構造の再構築

(科学研究費補助金(若手研究(B))研究成果報告書 平成27-29年度

——岡山大学埋蔵文化財調査研究センター, 2018.3

(F377.7/29-M)

山本 泰 [名誉教授]

光と水と緑の風景を描く (わたしの水彩スケッチ日本紀行 4)
 ——リーブル出版, 2017.4 (291.09/Y)

心にしみる風景を描きとる (わたしの水彩スケッチ日本紀行 5)
 ——リーブル出版, 2018.4 (291.09/Y)

<鹿田分館>

伊藤 武彦 [教育学研究科]

健康教育の理論と実践: わが国と外国の事例をもとに——日本学校保健会, 2018.3(374.97/KE)

岡山大学出版会からの寄贈図書リスト

岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会編

御留帳評定書 下 (池田家文庫資料叢書 3) ——岡山大学出版会, 2018.2 (L217.5/O)

岡山大学全学ガイダンステキスト編集委員会編著

岡山大学全学ガイダンステキスト 2018 年度版
 ——岡山大学出版会, 2018.3 (F377.9/O)

岡山大学法科大学院公法系講座編著

憲法: 事例問題起案の基礎——岡山大学出版会, 2018.5 (323.14/O)

会議

◆学外

30.4.19	第66回中国四国地区大学図書館協議会総会 (於：島根県民会館)	30.5.28 ～29	日本医学図書館協会第89回通常総会・分科会 (於：日本教育会館)
30.4.20	第45回国立大学図書館協会中国四国地区協 会総会(於：島根県民会館)	30.6.4	岡山県図書館協会総会(於：岡山県立図書館)
30.5.9	岡山県図書館協会第1回理事会 (於：岡山県立図書館)	30.6.7	平成30年度第1回岡山県大学図書館協議会総 会(於：山陽学園大学)
		30.6.14 ～15	第65回国立大学図書館協会総会 (於：京王プラザホテル札幌)

◆学内

30.3.9	貴重資料委員会・貴重資料刊行推進会合同会議	30.7.20	平成30年度第1回附属図書館運営委員会資源植 物科学研究所分館分科会
30.6.6	平成30年度第1回附属図書館運営委員会	30.8.7	平成30年度第1回附属図書館運営委員会 鹿田分館分科会
30.7.19	平成30年度第1回岡山大学出版会運営委員会		

研修

- ・平成30年度国立大学法人岡山大学オリエンテー
ション及び岡山大学新任教職員研修
参加者 石丸 綾華 (4.5)
- ・平成30年度国立大学法人岡山大学事務系新任職員研
修
参加者 石丸 綾華 (4.9～11)
- ・平成30年度国立大学法人岡山大学コミュニケー
ション研修
参加者 下田 悠佳 (4.9～11)
- ・平成30年度第2回図書館職員等研修講座(新任
研修)
参加者 石丸 綾華 (5.25)
- ・平成30年度国立大学法人岡山大学事務系新任職員研
修振り返り研修
参加者 石丸 綾華 (6.5)
- ・平成30年度勤務時間・休暇制度説明会
参加者 下田 悠佳 (6.26)
- ・第3回JMLAコア研修
参加者 犬飼 恵美子 (8.23～24)
- ・平成30年度第4回図書館職員等研修講座
参加者 中山 千佳子 (9.10)
- ・平成30年度図書館等職員著作権実務講習会
参加者 市地 七実子 (9.27～28)

編集委員から

岡山に引っ越して三年目、「岡山は災害が少ない」と色々な場面で聞かされているなか、今年、平成30年7月豪雨により県内各所が甚大な被害を受けました。亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、甚大な被害を受けられた皆さまに対して、心よりお見舞い申し上げます。学生の皆さんには、日頃から防災の意識を高めるとともに、常に悔いのない学生生活、研究生生活を送ってほしいと願っています。(Y.M.)

岡山大学附属図書館報「楷」 No.67 平成30年10月1日
発行人 大元利彦 編集 広報ワーキング
岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1
ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>